

様式2

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名

三島市立中郷中学校

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

1 実践テーマ	【 I ・ V 】
2 実施対象者	・三島市立中郷中学校 全校生徒及び保護者、教職員 →生徒 200人 保護者188人 教職員25人 ・三島大場地区健全育成会会員（学区・大場地区）→約100人 ・三島市立向山小学校 教職員・PTA運営委員→約20人
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（道徳） ② 行事名（講演会） ③ その他（図書室 掲示・生徒会） （2）地域における活動 ① イベント名（大場地区健全育成会 講演会） ② その他（メダルプロジェクト）
4 目標 （ねらい）	・2020オリンピック、パラリンピックを目前に控え、オリンピック、パラリンピックの意義や歴史について学び、興味関心を高める。 ・メダルプロジェクトを通し、2020オリンピック、パラリンピックに自分たちも参加し、作り上げていくという意識を育てる。 ・オリンピックの講演や、オリンピック、パラリンピックを題材にした学習を通し、スポーツに対する興味関心を育むとともに、夢に向かって挑戦していくことの大切さ、大変さ等について実感し、自分自身の生き方を考える一助とする。
5 取組内容	【通年の活動】 ① メダルプロジェクトへの参加 ※別紙資料（静岡新聞掲載）  ・東京2020組織委員会による、東京2020大会で使用するメダルについてみんなの持っている使用済み携帯電話等の小型家電から製作する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に参加。年間を通し呼びかけた。 ・生徒会本部役員を中心に取り組み、回収開始日「7月11日（水）」には、「チームブリヂストンサイクリング」所属の、現日本チャンピオン「窪木一茂 選手」が来校し、全校生徒に呼びかけを行った。

5 取組内容

② 図書室の掲示

- ・司書に協力をお願いし、図書委員の生徒と、図書室の一角に「オリパラコーナー」を常設し、オリパラの歴史等の掲示物を掲示する。また、オリパラ関係の図書をコーナーに置き、生徒にすすめた。



③ 道徳の授業

- ・資料名『目が見えなくても、ぼくはぼく』（自作教材）
- ・主題名「Aー（4）希望と勇気、克己と強い意志」



- ・元水泳パ ラリッ ク代表の「河合 純一選手」を教材として道徳の授業を行い、夢をあきらめないことの大切さ、努力することの大切さについて考えるとともに、パ ラリッ クの歴史についても学んだ。

【講演会の実施】

- ・平成30年11月21日(水) 13:30~15:20
- ・全校生徒及び保護者、学区である「大場地区健全育成会」とも協力して、広く地域に呼びかけて実施。
- ・ブリヂストンサイクル株式会社の自転車チーム、「チームブリヂストン サイクリング」に講師を依頼
- ・講演：『CHASE YOUR DREAM』
“夢を追いかける！”チームブ リヂ ストンサイクリング



<講演内容>

- ・オリンピックパラリンピックの概要
- ・飯島選手のオリンピック体験談
- ・自転車競技について
- ・チームブリヂストンサイクリングについて

<講師>

【飯島 誠 氏】

- ・自転車トラック・レースのポイントレースにて、シドニー2000・アテネ2004・北京2008オリンピック出場

5 取組内容	【石橋 学 選手】 ・自転車ロードレース、2015年ジロデイタリア出場  ＜実演・体験＞ ・室内練習機を使用し、各クラス代表により、自転車で最高速度を目指すチャレンジを行った。 ・最後に石橋選手のデモンストレーション、及び質疑応答を行った。
6 主な成果	【通年の活動】 ① メダルプロジェクトへの参加 ・生徒にとって、自分たちの携帯やスマホがメダルになるということで、オリンピック、パラリンピックを以前よりも身近に感じることができるようになった。 ・プロジェクト開始時に、窪木選手が来て下さったので、「自分たちの携帯スマホでつくったメダルを窪木選手に！」というより具体的な目標をもつことができ、頑張っている選手のみなさんに自分たちができることをしたいという思いをもつことができた。 ② 図書室への掲示 ・オリンピック、パラリンピックの基本的な知識を得ることができたのと同時に、興味関心を高めることができた。 ③ 道徳の授業 ・河合純一さんの生き様、パラリンピックを通して、夢をもつこと、夢に向かっていくその姿勢に触れ、オリンピック、パラリンピックの選手が夢をもち続け、ひたむきに頑張る姿を実感することができた。また、そうした姿勢から、生徒は自分自身を振り返るとともに、夢をもつこと、夢に向かっていくことの大切さを考える好機とすることができた。 【講演会の実施】 ・メダルプロジェクト開始時より、チームブリヂストンサイクリングの選手が来校されていること、身近な地域が東京2020の自転車競技の会場となること等、生徒にとってオリンピック、パラリンピックが、遠いテレビの中のものではなく、身近な存在として感じることができるようになった。 ・飯島氏、石橋選手の講演は、ひたむきに努力を続けること、夢に向かって歩み続けることの大切さと素晴らしさを感じさせてくれると同時に、お二人が気さくに触れ合って下さったり、様々な質問に答えてくれるその姿に、親近感を覚え、お二人が決して特別ではない、自分たちとかわらない人間であることも感じるすることができた。生徒は、一人ひとり自分自身の夢や、夢に向かう姿勢を振り返っていたようであった。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	・講演会を柱として、メダルプロジェクト、図書室の掲示、道徳の授業等、日常を通して取り組みを行い、こうした複数の取り組みを関連させていくことにより、さらに成果をあげることができた。 ・自分たちの住む三島市に、チームブリヂストンサイクリングが本拠地を移した。学校からも決して遠くはないところが、東京2020の自転車競技会場となったこと等を有効に利用することで、オリンピック・パラリンピックをより身近なものとすることができた。 ・三島市産業文化部商工観光課、観光政策係オリンピック・パラリンピック誘客対策室スポーツ推進課の全面的なバックアップにより様々な面でスムーズに実施することができた。
8主な課題等	・多忙化改善のため、様々な行事等の見直しが迫られる中、新規の事業を行うことは、準備等も含め時間的に厳しい面がある。 ・講演会を行う際の講師の依頼等について、学校、個人で依頼することに限界を感じた。(心当たりもなく、費用も確保できない) ・生徒の興味関心を高めるためにも、講演会等を単発で実施するよりも、様々な取り組みを関連させて実施していくことが有効であると考え、一貫性をもってプロデュースしていくことの難しさを感じた。
9来年度以降の実施予定	・講演会等の実施予定なし。 ・今年度育まれた、生徒のオリンピック・パラリンピックへの興味関心を大切に、図書室の掲示、学級掲示等については継続していきたい。